

とれる!

多収性品種情報 No. 1

平成30年6月
岩船農業振興協議会
村上農業普及指導センター

一部で植え傷み等により分けつ発生緩慢 ～中干しは茎数確保状況を見て開始～

生育概況

草丈:並 茎数:少 葉数:やや遅 (指標値比)

○早生品種の田植えは5月上旬頃に実施され、早植えが徹底された。

○5月4日頃の強風、7～10日の低温などにより、植え傷みや生育停滞がみられ、分けつ発生は緩慢となっている。

*茎数の少ないほ場では、当面浅水管理により分けつの発生を促進しましょう。ただし、今後は急激な茎数増加が予想されるので、分けつ発生状況を頻繁に確認し、中干し開始が遅れないように注意しましょう。

多収性品種生育調査ほの生育概況 (5月30日現在)

品種	調査場所	田植日	草丈 cm (指標値比 %)	茎数 本/m ² (指標値比 %)	葉数 葉 (指標値差 葉)
ちほみのり	関川村上野新	5月4日	31 (124)	138 (84)	6.3 (+0.3)
	村上市七湊	5月4日	25 (100)	99 (60)	5.4 (-0.6)
	平均	5月4日	28 (112)	119 (72)	5.9 (-0.2)
ゆきん子舞	村上市桃川	5月13日	25 (93)	96 (58)	5.4 (-0.6)
	村上市八日市	5月15日	23 (85)	74 (45)	4.8 (-1.2)
	平均	5月14日	24 (89)	85 (52)	5.1 (-0.9)
つきあかり	関川村上野新	5月5日	31 (115)	80 (64)	5.5 (±0.0)
	村上市十川	5月4日	24 (89)	82 (66)	5.4 (-0.1)
	平均	5月4日	28 (102)	81 (65)	5.5 (±0.0)
新潟次郎	村上市宿田	5月2日	26 (96)	81 (49)	5.4 (-0.6)
	村上市十川	5月2日	33 (122)	82 (50)	6.1 (+0.1)
	平均	5月2日	30 (109)	82 (49)	5.8 (-0.3)

当面の病害虫の防除対策 ～いもち病・斑点米カメムシ～

- 多肥栽培条件では、いもち病発生に注意する必要があります。薬剤の育苗箱処理をしなかった場合は、6月上旬頃をめやすに予防粒剤を本田に散布しましょう。
- ほ場に放置した補植苗は、葉いもちの伝染源となるので、速やかに除去しましょう。
- カメムシの増殖場所である休耕田や農道・畦畔などの雑草地では、雑草が結実しないよう、6月上旬から3週間程度の間隔で草刈りしましょう。
- カメムシは本田内雑草（ヒエやホタルイ）でも繁殖します。取りこぼし雑草の対策も万全に努めましょう。
 - 出穂の早い品種や「ゆきん子舞」など割れ粃の多い品種では、斑点米被害が集中することがあるので特に注意しましょう。

中干し・溝切りはしっかり実施！

- 中干し開始のめやすとなる「田植え後1か月」頃となっていますが、早植えのほ場では、植え傷みや低温等の影響で、分げつ発生が極端に少ないところもみられます。必ず茎数確保状況を確認し、適期に開始しましょう。
- 目標穂数の80%（過剰生育になりやすい地域は70%）の茎数を確保したら直ちに始めましょう。
- 中干し開始が遅れると生育過剰となり、乳心白粒等未熟粒の増加や病害の発生等の品質低下を招きます。
- 中干し効果を高めるために、溝切りは適期に確実にいきましょう。

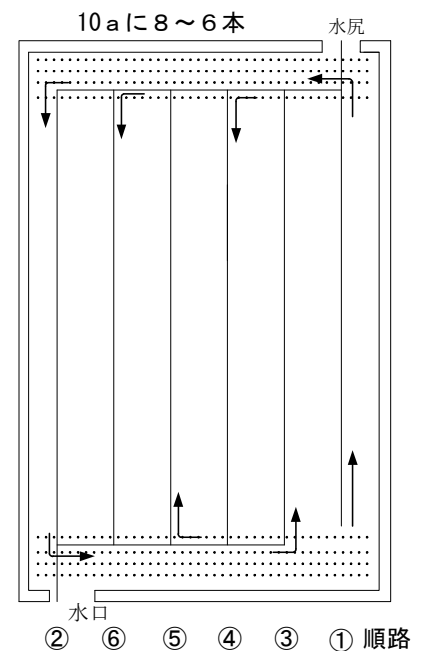
品種別中干し開始時期のめやす

品 種	㎡当たり 目標穂数	中干し開始時の茎数のめやす（目標穂数の80%）		
		㎡当たり本数	株当たり本数	
			坪 60 株植え	坪 70 株植え
ちほみのり	540	430	24	20
つきあかり	375	300	16	14
ゆきん子舞	420	340	18	16
あきだわら	340	270	15	13
新潟次郎	450	360	20	17

＝溝切り・中干しの様々な効能＝

- ① 無効茎の発生抑制による適正生育量の確保
- ② 下位節間の伸長抑制による倒伏軽減
- ③ 土壌への酸素供給による根の健全化
- ④ 収穫時の機械作業が容易な地耐力の確保
- ⑤ 作溝によりフェーン等の緊急時の迅速なかん水が可能
- ⑥ 作溝により秋の長雨による停滞水の容易な排水が可能

- 溝切りの際は、接続部分を手直しするとともに、必ず水口及び水尻につなぎましょう。
- 中干しは田面に小ひびが入り、軽く足跡が付く程度まで行いましょう。
- 根を広く張らせて登熟向上を図るために、遅くとも出穂1か月前までに終了しましょう。
- 砂質土壌や地力の低いほ場では、弱めの中干しとしましょう。



溝切りの順序



中干しの強さは、小ヒビが入る程度（左の写真程度）。

